

第2回 真駒内駅前地区の景観に係る取組 「駅前の景観について考えるミーティング」 開催概要

1. 開催日時等

第2回真駒内駅前地区の景観に係る取組「駅前の景観について考えるミーティング」（以下、景観ミーティング）は下記のとおり実施しました。

日 時	令和7年10月25日（土）13：30～15：30
場 所	南区民センター 2階 区民ホール
参加者数	32人

2. 当日の流れ

開会(5分)

- ・開会、あいさつ

情報提供(25分)

- ・第1回景観ミーティングの振り返り
- ・景観デザインガイドライン

「景観配慮のポイントと手法例（案）」の説明

グループワーク(70分)

- ・「景観配慮のポイントと手法例（案）」について意見交換
 - ▶重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し
 - ▶みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進
 - ▶駅前空間、にぎわいの軸
 - ▶色彩や素材
 - ▶その他

まとめ(20分)

- ・各グループの発表

○当日の様子



3. 意見交換

当日はグループごとに付箋紙を使用して、景観デザインガイドラインに示す「景観配慮のポイントと手法例（案）」について、「重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し」、「みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進」、「駅前空間、にぎわいの軸」、「色彩や素材」、「その他」の5つのテーマについて意見を出し合い、グループごとにまとめた。

○意見の要約

当日の各テーブルから出された意見を下記の通りまとめた。

〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・（建物の）セットバックによる見通し確保は大切
- ・（建物を）セットバックしたところに滞留空間を創出する

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・既存の街路樹の活かし方、樹木のリノベーション
- ・低木～高木のある立体感のあるみどりづくり
- ・木陰を歩いて周遊できるみどりのネットワーク
- ・日当たりを考慮した建物の配慮や植栽の種類の検討
- ・四季を楽しめる多様な花壇デザインの設計

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・交流広場・駅とバスターミナルの間のにぎわい空間
- ・交流広場と温かい空間の近さ（外と中がシームレスにつながっている）
- ・積雪を考えるとカバードウォーク（屋根付き歩行者通路）があるとよい
- ・駅前通りと中通りなど道の性質に対応した建物の距離感がある（A街区とB1街区の間が大切）
- ・中のにぎわいがガラスで滲み出しているのはよい
- ・カフェや市民の活動が外に見えるのは真駒内らしい（市民参加が活発になる）

〈色彩や素材〉

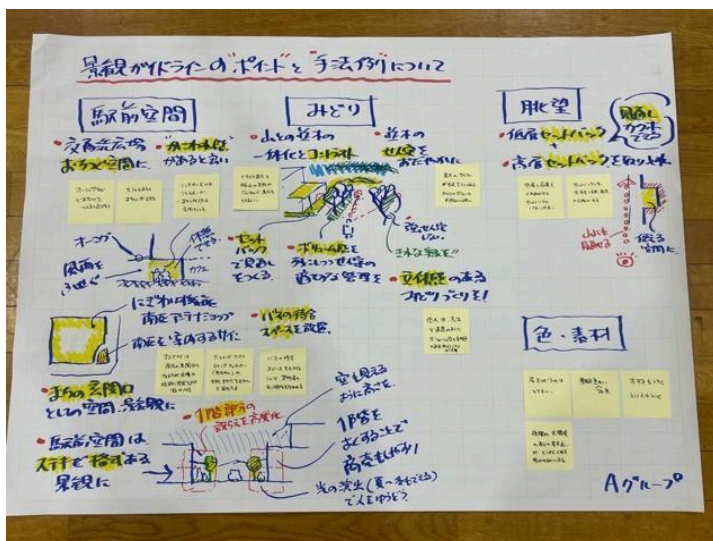
- ・景観色70色の中の真駒内にゆかりのある色彩の活用
- ・木材を使った温かみのある景観づくり
- ・ミニ石山緑地→石山に本物を見に行く流れ
- ・軟石やレンガなどを一部だけでも印象的に使えるとよい

〈その他〉

- ・ 昼の景観／夜の景観の視点が合った方が良い
- ・ 照明計画をしっかりと作る必要がある
- ・ 駅前の明るさ（イルミネーション含む）が広がっていくとよい
- ・ 積雪時のイメージもしっかりと捉えていく必要がある
- ・ 長期的な視点で景観を捉え、調和していく景観を考える必要がある
- ・ 駅前からエドウィン・ダン記念館までの一体感を創出
- ・ 新たに生まれた景観を活用した取組も生まれるのでは
- ・ A街区だけでなく、地区全体が統一された雰囲気をつくる

○各グループの意見の概要

【Aグループの意見の概要】



〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・低層、高層（の建物）ともにセットバックを取り入れ、見通しを確保し、（建物を）セットバックした余白を活用、交流の広場にする
- ・そうすることによって、桜山も見通せる

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・イチョウ並木と桜山のコントラストを意識して差別化できると良い
- ・並木の剪定を強剪定せずに穏やかに、緑のボリューム感を残してほしい
- ・低木、中木、高木でボリューム感と立体感のあるみどりづくりが大事
- ・（建物の）セットバックで見通しをつくる

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・にぎわいをつくる事も良いが、落ち着きを感じる空間をつくることも大切
- ・カフェやオーニングなど落ち着く空間があると良い
- ・真駒内は南区の玄関口なので、広場や施設に南区をPRする機能として、南区のアンテナショップや、南区を案内するサイン、キッチンカー(南区内の)などが設置されると良い

・町の玄関口としての空間、景観、特に駅前空間、1階部分の設えをステキで格式あるものにする

- ・1階の設えをよくすることで商売もしやすいのではないか
- ・光の演出(夏～冬も実施できる)で人を誘導する
- ・バスの待合スペースを設けることで、買い物客の利便性を高める

〈色・素材〉

- ・石を使うのはとても良い
- ・景観色70色も良い
- ・木材もうまく取り入れていく
- ・夜間の光環境の考えは基本良いが、どこまで人を歩かせるかによる

〈その他〉

- ・真駒内駅～複合開発ゾーン～公共ゾーン～魅力促進ゾーン、さらにエドウィン・ダンまで続く一体的な動線誘導を

[illegible]

- ・桜山や地下鉄駅などの見え方が意識されていて良いと思う

- ・真駒内の街路樹にも50年以上の歴史があるものもあり、既存の樹木を活用した例がある（ラ・トゥール札幌伊藤ガーデンなど）ので再開発に際して、既存の樹木を活用（リノベーション）したデザインになると良いと思う
- ・既存の樹木を調査・配慮することをコンペの要項にするとよいかも
- ・街路樹が伐採されても植樹がされず、歯抜け道になっているので、切ったら植える

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・バス⇔地下鉄の中間地点に多目的、滞留できる空間（書店、カフェなど）
- ・ガヤガヤ、ガチャガチャしていない、真駒内っぽいにぎわいが必要
- ・滞留空間＝にぎわいという表現はよい

・最新のデザインや素材が全て真駒内に合わない(=悪い)のではなく、緑や歴史、思想などに調和したデザインであれば真駒内に馴染む

・芸術の森などがあり真駒内はアートの街であることを踏まえてアートを活用するのも良いのでは

- ・デザインや使うマテリアルは長期視点（経年劣化を楽しむ）が必要

〈その他〉

- ・昼/夜、春夏秋冬など時間や季節の軸が薄いように感じた
- ・街路樹が育ってくると街灯が機能しなくなるため照明は足元の方が明るくて良いのでは

【Cグループの意見の概要】



〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・建物の高さについて配慮が必要ではないか

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・にぎわいの軸や緑地を整備する時の位置取り、配慮が必要
- ・エドウィン・ダン公園周辺の紅葉を楽しめるスペース

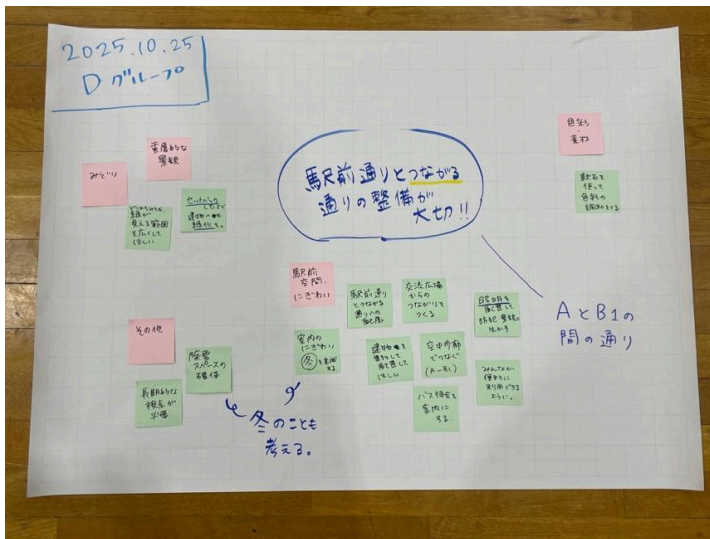
〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・外から来た人も滞留・歩ける空間
- ・雪が降った時のことに配慮し、常設の屋根があるスペースに
- ・多世代交流につながる活動ができる(文化センターのような…)
- ・サークル活動へ参画しやすい施設がよい
- ・市民活動が目に見える施設がよい
- ・行政、区役所、商業→複合施設の順にしても良いのではないかな
- ・図書館をブックカフェ的に活用してもよいのではないかな

〈その他〉

- ・高齢者層が外に出られる、交流できる
- ・雪、雨が降った時に関する配慮、屋内空間の充実
- ・カバードウォーク（屋根付き歩行者通路）にして、建物の外も歩けるようにする
- ・駅前ロードヒーティングによる冬の道整備
- ・子育てしやすい環境の(動線)整備や子ども達が遊べるスペースを確保
- ・通学等の送迎センター・遊び場などが道の周辺にあるとよい(複合施設)
- ・景観デザインガイドラインは、10~20年先を見据えた在り方を提示するべき、今後20~30年先に街で暮らす人々にとって良い街になるべき
- ・夏のイメージについてだけではなく、「冬のある街」を意識して欲しい

【Dグループの意見の概要】



〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・ 駅前通りとつながる通りの整備が大切。特にA街区とB1街区の間の通り
- ・ (建物を) セットバックした上で、建物の緑化も

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・ どこから見ても緑が見える範囲を広くしてほしい

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・ 駅前通りとつながる通りへの配慮
- ・ 交流広場からのつながりをつくる
- ・ 照明を配置して防犯・景観に生かす
- ・ みんなが便利に利用できるように
- ・ 空中歩廊でつなぐ(A街区からB1街区まで)
- ・ バス待合を室内にする
- ・ 建物を集約して配置してほしい
- ・ 室内のにぎわい、冬を意識する

〈色・素材〉

- ・ (札幌) 軟石を使って色彩の調和をとる

〈その他〉

- ・ 除雪スペースの確保
- ・ 長期的な視点が必要

【Eグループの意見の概要】



〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・ 10年～20年後もみどりあふれる森の中、公園の中に住んでいるような感覚
- ・ 風で木が揺れる音が広場からも聞こえる
- ・ もともと山で圧迫感のある中で建物をどう建設するか考え作られた街なので、（建物）セットバックはしてほしい
- ・ 桜山の緑は広場に近い時のインパクトがあるので距離感が近く感じられるように

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・ 緑道の緑が減らないように、開発の中でも今の木を残す
- ・ 北側駅前通り 街路樹に歩行空間が挟まれていてよい
- ・ 木陰を歩いていける緑のネットワークがあるとよい

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・ 人が歩くだけではつまらないので、人が留まる、遊ぶ・立ち話をする空間があると良い
- ・ A街区は見る・見られる、移動できる・できないがなくシームレスな空間
- ・ 駅を使わない人が来るような地域の人の活動場所になるとよい
- ・ コワーキングスペースやシェアオフィスなど働ける場所があると良い
- ・ 無料で使えるようなスペースもあると良い
- ・ ランニングステーションがA街区にあると良い
- ・ マルシェが開催される、アーケードになると楽しい、A街区～B街区～C街区をつなぐ街路は、時間に関係なく使えるように

〈色・素材〉

- ・ 軟石を象徴的に、ミニ石山緑地のような感じ

〈その他〉

- ・低い位置の街路灯が必要(高いと木で見えない)
- ・バスの待合
- ・雪の季節の対応
- ・外と中のシームレスな移動
- ・終電のバスが遅くなると良いのでは？A街区で滞留
- ・イスや、休めるスポットを点在させる
- ・地区計画で1階を商業サービスにする
- ・A街区とB街区の間に車が埋まってしまうのではないか

【Fグループの意見の概要】



〈重層的な景観づくり、桜山の山並みへの見通し〉

- ・道の性質に合わせた道路と建物の距離
- ・（建物の）セットバックはゆとりが出るし圧迫感を感じないので、セットバック+低層がよい

〈みどりをつなぐ景観形成、緑化の推進〉

- ・広葉樹は真駒内らしい
- ・ラベンダーだけでなく真駒内らしい花も植えられるとよい
- ・四季を通して花を楽しめるとよい
- ・区役所なども同じような雰囲気統一したい
- ・シンボルツリーが駅前にあったら良い
- ・計画的な花壇デザイン
- ・アナベルはエドウィン・ダンが好きだった
- ・地区全体としてみどりがつながっていくことが大切

〈駅前空間、にぎわいの軸〉

- ・駅前（の建物）はセットバックして、中通りはガラスでにぎわいをつくる
- ・中通りは建物が近い方がにぎわいを感じる
- ・（建物の）1Fセットバックで2F以上は出てても良いのでは
- ・高い建物（9階など）は建ってほしくない
- ・子ども・若者の居場所が考慮されていて良いと思う。次世代につながる
- ・ガラス張りで中の様子や明かりが漏れてくるのは冬も明るく温かく見える
- ・市民の活動や子どもたちの様子が見えると真駒内らしいのでは
- ・カフェも見える、人々の活動も見えると両立する
- ・建物内のにぎわいが見えるのが良い
- ・A街区とB1街区の間も人通りが増えることが大切
- ・エリアマネジメント部隊が活躍できるポケットパーク
- ・オープンスペースと温かい空間の行き来ができるように

〈色・素材〉

- ・道はインターロッキングのように明るくデザイン
- ・エドウィン・ダンあたりまで続いていくと良い

〈その他〉

- ・サイネージがあるとわかりやすい。タッチ操作で情報が得られるとよい
- ・店舗の看板の色は落ち着いた色味になるとよい
- ・新しい景観が活用を生み出す
- ・桜山散策路の活用につなげたい
- ・桜山や地下鉄から柏丘を見通す景観を整える
- ・冬の視点が不足しているのではないか
- ・みどりだけでなく、人の営みに対して言及した方が良い
- ・雪が降ったときの広場のあり方や歩道の作り方に配慮した方が良い
- ・ロードヒーティングなど歩きやすい工夫がほしい
- ・静かすぎない暗すぎない明るさを作れないか
- ・イルミネーションが面的に広がっているように明るいと良い